

作品「風の子」2017

Kaze no Ko 2017

椎名 澄子
Sumiko SHIINA

旭川大学短期大学部幼児教育学科



ブロンズ、木材



作品概要

2014年制作の「風の子」3部作から始まり、シリーズ9点目となる。これまでインスタレーション作品として発表してきたものとは違う点として、壁面を利用した展示方法である。ブロンズ製の「葉」を壁面に設置したことで、作品を取り巻く展示空間に風の流れる方向性が生まれる。私が作品制作において近年意識的に取り組んでいる「空間が創る彫刻」を舞台美術のように広い空間で表現した作品である。

椎名 澄子

個展「椎名澄子彫刻展～穏やかな緊張～」

Sumiko Shiina Sculptures Exhibition

椎名 澄子
Sumiko SHIINA

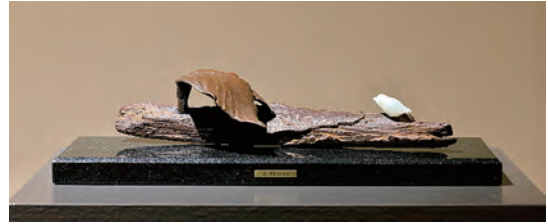
旭川大学短期大学部幼児教育学科



個展「椎名澄子彫刻展～穏やかな緊張～」



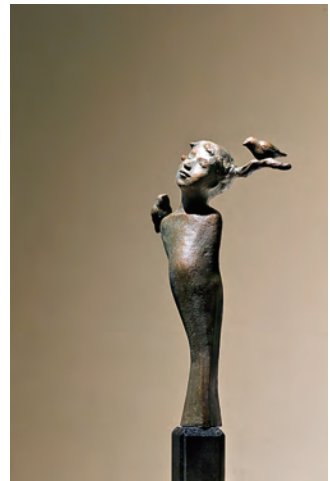
「朝」ブロンズ



「秋のうた」ブロンズ、雲南石



「風立ちぬ～海のはなし～」ブロンズ



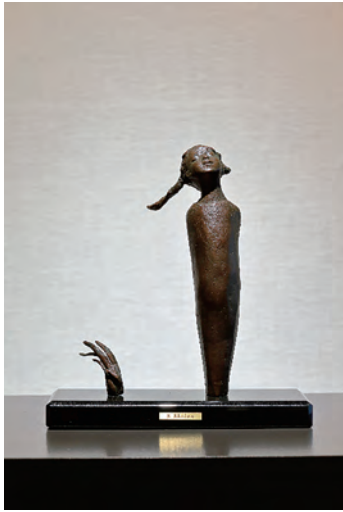
「さえずりの木」ブロンズ



「風の塔」ブロンズ



「うさぎの風」ブロンズ



「風立ちぬ」ブロンズ



「風の子」エスキース

展覧会概要

2017年10月30日～11月5日コンチネンタルギャラリー（札幌市内）にて開催した「椎名澄子彫刻展～穏やかな緊張～」では、彫刻作品10点、エスキース1点、レリーフ6点の全17点を展示。この展覧会では、以下の4つの文も展示した。これらは、作者の世界観や作品および空間への導入としての役割をもたせものである。

創造

私は作品制作を通して、今の自分と向き合い、成長を確かめ、可能性を知ります。
自分を肯定したいと願いながらも自身の問題を探し続け、次の自分へ繋げていくこの行為には、喜びと苦痛が混在しています。
それでも創り続けるのは、自らの存在意義を確かめなければ“ここにいるよ”と叫ぶ私の声は、あまりに小さすぎて消えてしまうからです。

彫刻

私の考える彫刻とは、形態そのものというよりも、その周りの空気を取り込むような作品です。
作品と向き合う長期の制作時間は、自分を見つめ、確かめる、終わりのない時です。
その間、作品が創り出す風の流れを止めずに動かし続けることで、私と作品が繋がっていきます。

心が動くとき

私にとって、北海道の四季の風や匂いはとても重要です。柔らかな風が運ぶ雪解けの土の匂い、肺がキュンと締まるような冷たい空気は、私の心を大きく震わせます。
この“穏やかな緊張感”という不思議な感覚は、私の孤独を心地よいものへと変えてくれます。

モチーフ

近年の作品テーマである「風」を表現するとき、その流れを方向づける役割として、少女の髪、衣服の袖や裾、そして葉や枝があります。
鳥や子どもは、時に風に踊り「風」そのものを表す存在です。